

2024 年度
部局自己点検・評価報告書
(評価対象年度：2023 年度)
(HP 掲載用)

新潟薬科大学
看護学部

質保証推進委員会

目次

1. 総評
2. 評定について
3. 看護学部 自己点検・評価
 - I. 教育活動について
 - I-1. 学生の受入れについて
 - (1) 広報活動について
 - (2) 入学者選抜・入学試験結果について
 - (3) 新入学生の状況について
 - I-2. 学習成果について
 - (1) 教育課程の編成・実施について
 - (2) 学修成果について
 - (3) 授業運営について
 - (4) 国家試験について
 - I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について
 - (1) 学生修学・生活支援について
 - (2) キャリア支援について
 - I-4. AP、CP、DP、3方針の整合性について
 - II. 研究活動について
 - III. 社会連携・社会貢献活動について
 - III-1. 国際交流について
 - III-2. 高大連携について
 - III-3. 地域連携について
 - IV. 教員・教員組織について
 - IV-1. 教員組織について
 - IV-2. FD活動について
 - V. 定員・学費の適切性について

1. 総評

2023年4月1日、新潟薬科大学看護学部は4年制大学の看護学部として門出を迎え、同時に保健師助産師看護師法施行令第12条に定める学校と指定され、新入生を迎えた。質の高い教育と研究を追求し、実学一体を基本とし、医療人に適う倫理観と豊かな人間性をもち、看護学にかかわる専門知識・技術の習得と実践力を身に付け、医療の進展に資する研究心を有し、地域の人々の健康増進ならびに公衆衛生の向上に貢献する看護職を育成することを学部の目的とし、教育研究活動を始めた。

1年目の入学者は72名と定員の80名には至らなかったが、新潟県内で唯一の薬学部を有する大学の看護学部であること、1年次は他学部の学生とともに新津キャンパスで学ぶこと、国立病院機構の西新潟中央病院と隣接するキャンパスで2～4年次まで学ぶことなどを特色とし、広報活動に努めてきた。今後、これらの特色を裏付けるべく実践を積み重ねてその根拠となるデータを蓄積していきたい。そして、大学で看護を学ぶことの意味を探求し、将来的に活躍できる資質と能力を兼ね備えた専門職としての看護職を育成し、病院・地域医療・行政・教育など多様な場で活躍してもらいたいと考えている。

本年7月に病院キャンパスに移動した2年次学生にアンケートを実施した。学生たちは専門職としての知識・技術を身に付ける教育だけでなく、学部生同士の交流を大学で学ぶ中に求めているということがわかった。創設期に携わる教員として、他学部学生とともに学べる教育の編成を図り、様々な専門分野で学ぶ学生が交流し、仲間で育ちあい鍛えあうことのすばらしさを実感できるよう学習環境を整えていきたいと心を新たにしている。

教員は教科目の開講に併せて着任したため、2023年度は7名の教員で教育・研究を担った。7名でできることに限りもあるため、全学の教職員の多大なる協力と支援体制のもとで学部運営はスタートした。始まったばかりで成果を上げるにはすべて緒についたばかりのため、自己点検・評価に関する質保証推進委員会による自己評価はB～C評価と評定は低い。しかし、等身大の視点を失わないよう心掛け1年目の点検・評価を行い、看護学部の報告書をまとめた。

看護学部における各点検項目に対する、質保証推進委員会の自己評価は、「2. 評定について」に記載のとおりとした。

自己点検・評価による現状の把握と分析は、課題の抽出と改善だけでなく、学部の発展に寄与する新しい学びに繋がるため、新たなPDCAサイクルの起点として、「2024年度 部局自己点検・評価報告書(評価対象年度：2023年度)」を活用していきたいと考えている。

2025年1月24日

看護学部長

質保証推進委員長

定方 美恵子

2. 評価について

I. 評価の基準

2023年度の各項目における評価は、以下のSからCの4段階評価で自己評価した。

S	高い水準で取り組み、卓越した成果があがっている。または特筆すべき取り組みを行っている。
A	適切な取り組みがなされ、成果があがっている、または近く確実な成果が見込まれる。
B	積極的な取り組みがなされているが、十分な成果には至っていない。
C	ほとんど取り組みがなされておらず、成果があがっていない。

II. 評価一覧

看護学部 自己点検・評価（質保証推進委員会による評価）

項目名	評価
広報活動について	B
入学者選抜・入学試験結果について	B
新入学生の状況について	B
教育課程の編成・実施について	B
学修成果について	B
授業運営について	B
国家試験について	C
学生修学・生活支援について	B
キャリア支援について	B
AP、CP、DP、3方針の整合性について	B
研究活動について	B
国際交流について	B
高大連携について	C
地域連携について	B
教員組織について	B
FD活動について	B
定員・学費の適切性について	B

3. 看護学部 自己点検・評価

I. 教育活動について

I-1. 学生の受入れについて

(1) 広報活動について 《点検担当：日下委員、入試課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

2023年度オープンキャンパスにおいて、看護学部希望者の参加者数(延べ数)は、2022年度と比べて減少した。特に、高校3年生の減少率が最も高かった。一方で、西新潟中央病院キャンパス見学会は、2022年度と同様、2日間で午前・午後の計4回分を開催した。高校生の進路選択の時期にあわせて、昨年度よりも前倒して夏場を開催し、全学年とも参加者数を伸ばすことができた。この見学会でオープンキャンパスの参加者減をある程度カバーすることはできたが、全体として高校3年生の参加状況が厳しかった。

【資料 3_I-1_(1)-1】 【資料 3_I-1_(1)-2】

資料請求数は学部別に出ないため、全学の人数である。新潟県、山形県、福島県、富山県で増加傾向を示している。しかし、2024年度入試において、志願者数は2023年度入試と比べて、大幅に減少した。

【資料 3_I-1_(1)-3】 【資料 3_I-1_(1)-4】

看護学部では、出張講義を4回、大学見学時の模擬講義を1回、会場ガイダンス(合同進路説明会)を1回担当し、高校生約140名に対して講義や学部説明を行った。

【資料 3_I-1_(1)-5】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	オープンキャンパス参加数を増加させる
課題1 方策	高校生が気軽に参加できるように内容を見直し参加者増を図る。2024年度は夏期のオープンキャンパスにおいて、病院キャンパスと新津キャンパスで同日開催とし、病院キャンパスから新津キャンパスに向かうバスを用意して、両キャンパスを一度に体験できるよう企画する。
課題2	看護学部の認知度を高める。
課題2 方策	より多くの高校生に新潟薬科大学看護学部の存在を意識づけるために、学部の強みを検討整理する。また、出張講義や学内外イベントに看護学部教員が積極的に参加してアピールする。

【根拠データ、資料】 ※赤字は学外非公表

資料 3_I-1_(1)-1	オープンキャンパス参加者数 (2023-2022)
資料 3_I-1_(1)-2	西新潟中央病院キャンパス見学会参加者数 (2023-2022)
資料 3_I-1_(1)-3	資料請求者数 (全学)
資料 3_I-1_(1)-4	志願者数比較 (2024-2023)
資料 3_I-1_(1)-5	出張講義、ガイダンス等参加実績

(2) 入学者選抜・入学試験結果について 《点検担当：石綿委員、入試課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

看護学部では、入学者受入の方針(アドミッションポリシー:AP)に基づき入学者

選抜を行っており、各入試区分において課す試験内容と AP との対応も明確に定めている。また、学力の 3 要素「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を身につけていることを求めており、全入試区分においてこれら 3 要素の修得の程度を確認している。【資料 3_I-1_(2)-1】【資料 3_I-1_(2)-2】

2024 年度入試において、入学者は 72 人であった前年度と比べて 22 人減少し、50 人（定員充足率 62.5%）であった。特に、指定校の追認を年度途中でも進めたが、学校推薦型選抜試験の志願者が前年より約 39.5%減少した。【資料 3_I-1_(2)-3】【資料 3_I-1_(2)-4】【資料 3_I-1_(2)-5】

これらの状況を受け、志望度の高い志願者を見込める年内入試での志願者獲得を強化するため、2025 年度入試から総合型選抜試験を 2 回実施することとした。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	入学定員の充足率の向上
課題 1 方策	2024 年度入学者数が 50 人（定員充足率 62.5%）と定員が充足されていない。学校推薦型選抜試験の志願者数減少が顕著であったため、2025 年度入試より、指定人数を増やすことを検討する。2024 年はオープンキャンパスの参加人数も増加しており、志願者数増に一定の効果が見込まれる。また辞退者が最も多い（歩留まりが低い）一般選抜試験個別方式 I 期については、受験生に選ばれるよう、他大学よりも魅力を高めることは勿論だが、単願かつ早期に入学者が決定される総合型選抜試験の定員数を調整していく。
課題 2	入学者選抜の妥当性の検証
課題 2 方策	2023 年度入学生について、入試成績と 1 年次の年度末の成績との相関により、入学者選抜の妥当性を検証する。

【根拠データ、資料】 ※赤字は学外非公表

資料 3_I-1_(2)-1	2024 年度入試ガイド_学力の 3 要素について
資料 3_I-1_(2)-2	2024 年度募集要項_アドミッション・ポリシーと評価方法
資料 3_I-1_(2)-3	2023 年度入学試験 入学者数一覧
資料 3_I-1_(2)-4	2024 年度入学試験 入学者数一覧
資料 3_I-1_(2)-5	2023 年度及び 2024 年度学校推薦型選抜試験入学者実績

(3) 新入学生の状況について <<点検担当：戸田委員、教務第二課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>■ 「(1 年後の)留年/休学/退学状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度入学 72 名の 1 年後の留年/休学/退学状況は、留年（休学）1 名（1.39%）、退学 1 名（1.39%）であった。【資料 3_I-1_(3)-1】 <p>■ 「高校時の履修科目と 1 年次成績との相関」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度入学生のうち、高校在学時に「生物基礎」のみを履修していた学生が 16 名、「生物基礎」および「生物」を履修していた学生が 55 名であった。両者を 1 年次開講の必修科目「人体の構造と機能 I・II・III」の成績割合（秀、優、良、可の割合）で比較すると、「生物基礎」のみの学生に比べ、「生物」まで履修している学生層のほうがいずれの科目においても成績が良かった。特に入学直後に履修する「人

体の構造と機能Ⅰ」において顕著であった。【資料 3_I-1_(3)-2】

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	主体的・能動的な学修態度の強化
課題 1 方策	新入生オリエンテーション等において、大学とは何か、単位制の意味するところを説明してきたが、学生が主体的且つ能動的に学修することの意識づけができるような授業を更に行う。
課題 2	基礎学力の強化
課題 2 方策	看護学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、看護の対象である人間を生物学的・生活者の両側面から捉える必要性を説いていることから、高校時に「生物」を履修していない学生に対し、入学後にビジュアルの「生体のしくみ」等、生物関連の講座を自己学習・受講できるような学修環境を整える。

【根拠データ、資料】

資料 3_I-1_(3)-1	入学年度別の入学者推移（留年/退学状況）
資料 3_I-1_(3)-2	高校生物履修状況による「人体の構造と機能」の成績状況

I-2. 学習成果について

(1) 教育課程の編成・実施について 《点検担当：戸田委員、西新潟中央病院 C 事務室》

【事実(データ)に基づく現状説明】

■ 「高大接続」

・学校推薦型選抜入試に合格した学生を対象に「入学前教育」を2月に実施している。必須課題としては「学習」と「学修」の違い、「人間はなぜ陸に上がったのか」、選択課題としては「人間が歩くとは」「人間が食べるとは」「人間が排出・排泄するとは」を事前に求め、まとめたものを入学前のディスカッションにより高大接続を図っている。また、看護学の入門書として「生きているとは - 看護の本質とこれからの看護」も配付し、疑問・質問に答えている。この書籍は、一般選抜試験で入学した学生にも配付し、1年次開講の必修科目「看護学原論」等において、全学生が看護の対象の人間についての理解が深まり、看護の本質が理解できるようにしている。

■ 「初年次教育」

・「学習」と「学修」の違いが理解できるように、教養に関する科目では「スタートアップセミナー」など、専門基礎科目では「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」など、専門教育科目では「看護学原論」「地域・在宅看護論」などを配し、幅広く体系的に看護学への理解が深まるように実施している。

■ 「カリキュラムツリー、マップ、シラバス(DPと各科目の内容との相関性)」

・シラバスには、「DP達成との関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目」欄を設け、各科目において特に身に付けて欲しい能力と資質については、カリキュラムマップに沿って明示している。さらに、カリキュラムツリーでは、螺旋を描きながら看護実践能力が形成発展していく様子を視覚化している。

・履修ガイドには、看護学教育モデル・コア・カリキュラム、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを掲載している。

<p>■ 「社会的および職業的自立のための教育」</p> <p>・看護学は実践科学に位置することから、講義・演習・実習を通して段階的に看護職者としての自立を促す教育が体系的に組み込まれ、実施している。</p>
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	学修することの目的と意味づけの強化
課題1 方策	学生に対し各科目における「DP 達成との、関係/看護学教育モデル・コア・カリキュラム対応項目」を意識した学修を強化する必要がある。教育側には、看護学教育モデル・コア・カリキュラムと DP を常に念頭に置きながらの授業を行うためにも、今後は、FD 研修などを通して周知する必要がある。
課題2	段階的に学修することの意識づけの強化
課題2 方策	看護学臨地実習は、学生にとっては学内で看護実践能力の土台をどれだけ学修し得たかの評価の場である。教育側にとっても、教授した内容が臨地の対象者のもてる力を引き出す看護としてどれだけ通用するのか評価の場であることから、これらを意識して、段階的に看護実践能力が形成発展していくように更に取り組む必要がある。

【根拠データ、資料】

特になし	
------	--

(2) 学修成果について 《点検担当：戸田委員、西新潟中央病院 C 事務室》

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>■ 「成績評価・GPA」</p> <p>・成績評価については、前期前半、前期後半、後期前半、後期後半毎に開示し、アドバイザーが面談を行い、学修意欲が湧くように指導している。</p> <p>・GPA 制度を導入し、学業成績優秀者の決定に GPA 値を利用している。</p> <p>■ 「留年/休学/退学状況」</p> <p>・留年（休学）1名、退学1名であった。いずれの学生も出席日数不足等により、単位修得ができなかった。</p> <p>■ 「授業評価アンケート(授業外学修時間含む)」</p> <p>・全ての授業の終了後に、「授業評価アンケート」を実施している。</p> <p>・授業評価項目を前期と後期で比較すると、後期の方が、全ての項目において「強く思う」のポイントが低かった。項目としては、7.話し方や声の大きさはちょうどよかったが 9.7%と最も減少していた。次に、8.総合的に判断し、この授業に満足した(8.9%減少)。2.この科目を受けたことで、学習意欲がわいた(8.0%減少)。6.レジュメやパワーポイント等、提示された教材はわかりやすかった(6.7%減少)。5.教員の説明はわかりやすく理解しやすかった(6.6%減少)。1.この科目の内容が理解できた(6.2%減少)。4.シラバスに沿った授業進行であった(4.7%減少)の順であった。</p> <p>3.この授業に関する授業時間外の学習に週平均でどのくらい費やしたかの項目も、後期では3時間以上、2~3時間、1~2時間と、いずれも減少しており、1時間未満は増加、0時間は前期の7.7%に比べ16.8%と増加していた。【資料 3_I-2_(2)-1】【資料 3_I-2_(2)-2】</p>
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	大学生としての学修態度の意識づけ
課題1 方策	2023年度後期から出席管理システムを導入したが、授業終了直前に出席登録をする等の問題が発生した。2024年度からは出席を登録できる時間を授業開始10分前から授業開始30分後の40分間と定める等の策を講じるとともに、大学生としての学修態度の意識づけを行う。
課題2	学修成果の向上を目指した授業の在り方
課題2 方策	前期科目のスタートアップセミナー、看護学原論などにおいては、初期の段階から、グループワーク、プレゼンテーションなどを導入し、伝える力・聴く力・まとめる力が身につくようにしていることから、後期科目においても、学生の反応を見ながら双方向的な授業を行う。

【根拠データ、資料】

資料 3_I-2_(2)-1	2023 看護学部授業評価集計(前期 HP)
資料 3_I-2_(2)-2	2023 看護学部授業評価集計(後期 HP)

(3) 授業運営について 《点検担当：戸田委員、西新潟中央病院 C 事務室》

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>■ 「出席状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を欠席がちな学生への対応については、科目責任者がアドバイザーに連絡し、アドバイザーは必要に応じて保護者とも連携を図りながら、学生の状況・状態を確認し、出席できるよう支援している。 <p>■ 「授業評価アンケート」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業評価アンケート」は、他学部のを参考に看護学部で独自に作成し、実施している。 <p>■ 「授業担当教員(授業担当負担)」</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の授業担当負担の格差は小さいとは言えない現状がある。教員の年齢層も高い。
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	授業評価アンケート
課題1 方策	看護学部のを基本に全学的に統一されたものを次年度から使用されることから、他学部との比較も必要と考える。
課題2	授業担当教員について
課題2 方策	完成年度に多くの教員が退職することから、若い教員の教育力の強化、後任の教員の確保も急務と考える。

【根拠データ、資料】

特になし	
------	--

(4) 国家試験について 《点検担当：小山委員、学生支援課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

2年生から対策を進めていくこととしたため、1年生に向けた取り組みは行っていない。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	試験対策の充実を図る。
課題1 方策	2年生を対象に、模擬試験の実施などを検討する。

【根拠データ、資料】

特になし	
------	--

I-3. 学生支援活動、キャリア支援活動について

(1) 学生修学・生活支援について 《点検担当：小山委員、学生支援課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>・「修学支援状況」 日頃の修学状況等の報告を保護者に行うことで、保護者満足度の向上と今後の修学に関する協力を得ることを目的として、保護者面談会を実施した結果、参加率は、47.2%（参加保護者34世帯／在籍学生数72名）となり、保護者から安心したなどの反応が多く、今後の修学への支援を得ることができたと考える。</p> <p>・「生活支援状況」 アドバイザーグループの親睦を図り、学生生活をより豊かなものとするを目的として、10月20日にぶどう狩り体験を行った。参加率は、84.7%（参加学生61名／在籍学生数72名）となり想定よりも多くの学生が参加し、アドバイザーグループで親睦を深めることができたと考え。</p> <p>・「クラブ活動、学生活動支援状況」 ① 学生支援総合センターと連携して、本学学友会（学生自治組織）が主催する新入生歓迎会、及び学園祭（対面式）を支援した。新入生歓迎会では、秋葉区及び新津商工会議所からの支援もあり学ランマップ加盟店で使用できる2,000円券を配布し、学生同士が仲良くなるきっかけ作りとして支援した。【資料3_I-3_(1)-1】 ② 新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことを受け、他学部在学生委員会と連携し、例年実施していたスキー&スノーボードスクールを2泊3日で企画した。看護学部からの参加者は12名となった。【資料3_I-3_(1)-2】</p> <p>・「特待生・奨学金」 2023年度は、1年生しか在籍していないこともあり、特待生等の対象者はいなかった。</p>

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	生活支援の充実を図る。
課題1	2024年度については、2023年度の参加率を超えるよう、実施時期及び内容

方策	を再検討したうえで、学生への周知をオリエンテーション時に行うなどを検討し、実施する。
課題2	修学支援の充実を図る。
課題2 方策	2023年度については、学生への直接的な修学支援を行ってこなかったことから2024年度については、その支援方法等を検討し実施する。

【根拠データ、資料】

資料 3_I-3_(1)-1	新入生歓迎イベント実施結果
資料 3_I-3_(1)-2	スキー&スノーボードスクール実施結果

(2) キャリア支援について 《点検担当：小山委員、キャリア支援課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

1年次のキャリア支援については、社会で求められる能力を測定するプログテストを全員(72人)が受験した(受験率100%)。結果については専門業者による解説会を行い、客観的に現状を把握するガイダンスを行った。
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	職能、職域に対して幅広い知識を持たせる。
課題1 方策	自分のキャリアパスを考える講座を実施し、早期から意識付けを行う。看護師、保健師、助産師からの講演会を行い、職業観を醸成する。

【根拠データ、資料】

特になし	
------	--

I-4. AP、CP、DP、3方針の整合性について 《点検担当：定方委員長、西新潟中央病院C事務室》

【事実(データ)に基づく現状説明】

学部設置初年度であり、教育活動を点検・評価する指標が少ないことから、現時点で3つのポリシーの適切性や整合性を判断することは難しい。 卒業状況、国家試験合格状況、就職状況、卒業生アンケートなどDPの評価、カリキュラムとシラバスチェック、成績評価、学生アンケートによるCPの評価、また選抜試験区分による成績評価など、3つのポリシーのデータを踏まえ、整合性に関する課題を完成年度前においても経時的に点検していきたい。
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	整合性チェックのための方策の準備
課題1 方策	整合性をチェックするための方策の準備を進め、ディプロマポリシールーブリック表などによるDPに示した資質・能力育成評価、次いでCPとDPの整合性にかかる情報を各年度で収集し、順次、課題を整理していく予定である。 なお、2026年度から導入予定の看護学モデルコアカリキュラム(改訂版)はコンテンツ基盤型からコンピテンシー基盤型カリキュラムとなる予定で

	ある。目指す資質・能力を据えたコンピテンシーに対応した、カリキュラムの自己点検評価を進める。
--	--

【根拠データ、資料】

特になし	
------	--

Ⅱ. 研究活動について <点検担当：定方委員長、基盤整備課>

【事実(データ)に基づく現状説明】

<ul style="list-style-type: none"> ・「研究実績」は、学术论文1編、国内学会発表6件であった【資料3_Ⅱ-1】 ・外部資金は、民間財団からの助成金が1件であった【資料3_Ⅱ-2】
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	研究業績の向上
課題1 方策	学术论文の数は教授職によるものが殆どであるため、若手教員に対する研究活動の奨励をはじめ、全体的な研究レベルの底上げが求められる。
課題2	外部資金獲得の増強
課題2 方策	研究活動の活性化には外部資金の獲得が不可欠であるため、科研費をはじめとした競争的研究費や民間財団助成金への応募を奨励する。

【根拠データ、資料】

資料3_Ⅱ-1	2023年度 研究業績
資料3_Ⅱ-2	2023年度 外部資金獲得状況

Ⅲ. 社会連携・社会貢献活動について

Ⅲ-1. 国際交流について 《点検担当：日下委員、学事課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

<ul style="list-style-type: none">・モンゴル3校、タイ1校の計4校が2023年度新たに海外協定校となり、海外協定校は合計15校となった【資料3_Ⅲ-1-1】。・コロナ禍の影響で前年度まで中止していた学生海外派遣事業を再開し、西シドニー大学への短期語学研修（薬学部生1名、応用生命科学部生4名、医療技術学部生1名、看護学部生4名）を派遣した【資料3_Ⅲ-1-2】。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	今後、外国人留学生の受入れに向けて、各種体制や制度を整備する。
課題1 方策	本学では今後、全学的に優秀で修学意欲の高い外国人留学生（学部・大学院・研究生）の受入れを推進する方針であるため、留学生獲得・受入れに向けて、具体的な施策（受入れ体制整備、学生募集及び外国人留学生入試制度等）を整備し、実行する。 看護師は今後人手不足が予想され、外国人の活用も視野に入っているが、EPA等の経済協定による外国人看護師は国試合格率の兼ね合いで、失敗に終わっている。外国人が日本で働くためにははじめから日本の大学に入学した方が国家試験の合格率もよいことを合わせて、アジア圏の留学生を受け入れることは本学看護学部の将来の特色作りにも寄与できる可能性があるため、今後、学部教員内で意見交換し検討したい。

【根拠データ、資料】

資料3_Ⅲ-1-1	2023年度海外協定校一覧
資料3_Ⅲ-1-2	2023年度学生海外派遣事業参加実績

Ⅲ-2. 高大連携について 《点検担当：日下委員、入試課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

2023年度は、高大連携に関する取組みや実績はありませんでした。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	高大連携を進め、看護学部の認知度を高める。
課題1 方策	認知度向上を目的とした、高大連携講座実施の検討を開始する。

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

Ⅲ-3. 地域連携について 《点検担当：古地委員、学事課》

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>・地域連携活動については、新潟市秋葉区、新津商工会議所及び南蒲原郡田上町（いずれも本学と包括連携協定を締結）との取組みを中心に、【資料 3_III-3-1：2023 年度の主な地域連携活動一覧】をはじめとする活動を行った。</p> <p>本学の立地する近隣地域との連携については、地元自治体（秋葉区・田上町）、産業界（新津商工会議所）の協力もあり、コロナ禍前と同程度の取組みとなった。特に、田上町・町政 50 周年記念事業への協力や、秋葉区との「キャリア形成実践演習」等の教育連携により、本学学生が幅の広い世代間交流を実施した。</p>

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	アフターコロナを見据えた取組みの活性化を図る。
課題 1 方策	本学学生・教職員が地域社会に溶け込み、「実学一体」の地域連携による教育活動を実現できるよう、取組みを進めていく。
課題 2	「医療・健康講座」をはじめとする市民向け公開講座の拡充を図る。
課題 2 方策	高等教育機関としての知見を地域住民の方が気軽に学べ、興味をお持ちいただける事業とするために、社会情勢や最新環境に合わせ、各世代に役立つ講座となるよう、取組みを進めていく。

【根拠データ、資料】

資料 3_III-3-1	2023 年度の主な地域連携活動の一覧
--------------	---------------------

IV. 教員・教員組織について

IV-1. 教員組織について <<点検担当：定方委員長、学事課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

<p>・「専任教員年齢構成・男女比」</p> <p>看護学部 of 教員年齢構成は、学部設置初年度であり、着任前の教員がいることから、比較的年齢の高い状況であるが、これは設置認可申請時の計画通りであり、学年進捗とともに年齢構成のバランスは改善する。また、完成年度前に定年を迎える専任教員については、高度な専門知識を有し、本学の教育上必要かつ教育研究活動に適していることから、定年延長等の必要な措置を講じている【資料 3_IV-1-1】。</p> <p>・「主要科目への専任教員の配置」</p> <p>2023 年度は学部設置初年度で、専任教員が 7 名のみであったため、教育上主要と認められる必修科目及び必修基礎分野科目を除く専門基礎分野の必修科目ともに、専任教員による担当比率は低かった（2023 年度開講科目）が、学年進捗とともに改善する予定である。また、助教以上の専任教員で博士号を有する者は 7 名中 4 名、博士課程に在籍中の教員が 2 名であった。専任教員は優れた専門知識を有し、本学部の目的に沿った教育研究成果が期待できる。</p> <p>・「授業担当教員(授業担当負担)」</p> <p>看護学部の 2023 年度の平均授業担当時間数は、61 時間であった。また、授業担当教員 7 名中 1 名が、90 時間を超えて担当した【資料 3_IV-1-2】。</p>
--

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	専任教員の年齢構成バランスの改善
課題 1	2023 年度は開設初年度のため、教員が揃っていないこともあり、年齢構成

方策	のバランスが整っているとは言い難い。今後は、順次 30 代～40 代の教員の採用や、教員の昇任等により、年齢構成のバランスを考慮した教員組織を編制していく。
課題 2	主要科目への専任教員の配置に向けた調査と計画
課題 2 方策	1 年次は教養科目・専門基礎科目中心の科目配置のため、主要科目である専門必修科目の開講が一気に始まる 2 年次以降に専任教員担当比率を調査し評価を継続する。教員が揃う 2024 年度以降に評価し、主要科目を担当可能な専任教員の見直しと適切な教員配置を行う。

【根拠データ、資料】

資料 3_IV-1-1	教員の年齢構成表
資料 3_IV-1-2	教員別授業担当時間数

IV-2. FD 活動について <<点検担当：定方委員、教務第一課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年 9 月 11 日(月)に、「指定規則の第 5 次改正に伴う看護学教育における教育内容の検討」をテーマに研修を行った。 ・看護学部の全教員が参加した。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題 1	全看護学領域での FD テーマの協議
課題 1 方策	新設学部教員の漸次就任のため、2023 年度は 7 名での実施であり、全看護学領域での協議とはならなかった。次年度以降教員数が増加するに伴い、指定規則第 5 次改正の意図について全教員間で理解を深め、教育活動に活かすための研修会を企画・実施する。
課題 2	指定規則第 5 次改正による教科教育内容の各看護学領域での均一化の検討
課題 2 方策	指定規則第 5 次改正に伴う従来の教科教育内容における改訂点が各看護学領域によりばらつきがある。他大学における教科教育内容の改訂例などを参考にした看護学領域毎の研修計画を企画・実施する。

【根拠データ、資料】

なし	
----	--

V. 定員・学費の適切性について <<点検担当：定方委員長、学事課>>

【事実(データ)に基づく現状説明】

<ul style="list-style-type: none"> ・2023 年度の看護学部の入学定員充足率は 90%であった。また、2024 年度入試における看護学部の入学定員充足率は 63%であり、定員を満たすことができなかった【資料 3_V-1】。 ・旺文社教育情報センター調査による「2022 年度大学の学費平均額」によると、看護学部と同系統の看護・医療・栄養学部系統/看護学では、入学金 267,551 円、授業料
--

1,046,400円、初年度納入金1,820,535円であり、看護学部の学費は全国平均とほぼ同等で適切であると判断される【資料3_V-2】。

【課題など改善すべき点と、その改善に向けた方策】

課題1	入学定員充足の改善
課題1 方策	定員充足に向けた施策と定員の適切性の検討を行い、改善に向けた具体的な施策（看護学部の魅力、売り、他大学との違い等の抽出、構築や、高校生に対するそれら情報の伝達手段の確認など）を行い、実行する。

【根拠データ、資料】

資料3_V-1	看護学部 入学定員充足率
資料3_V-2	看護学部 学費